

シリーズ
白根市下水道元年 ⑦

宅地内排水設備工事
公共汚水ますから
家庭までは個人が負担

家庭から出る排水は公共汚水ますを通って下水道へ流れます。下水道が整備された場合、公共汚水ますまでの家庭内の排水設備工事は、市民の皆さんに負担していただくこととなります。

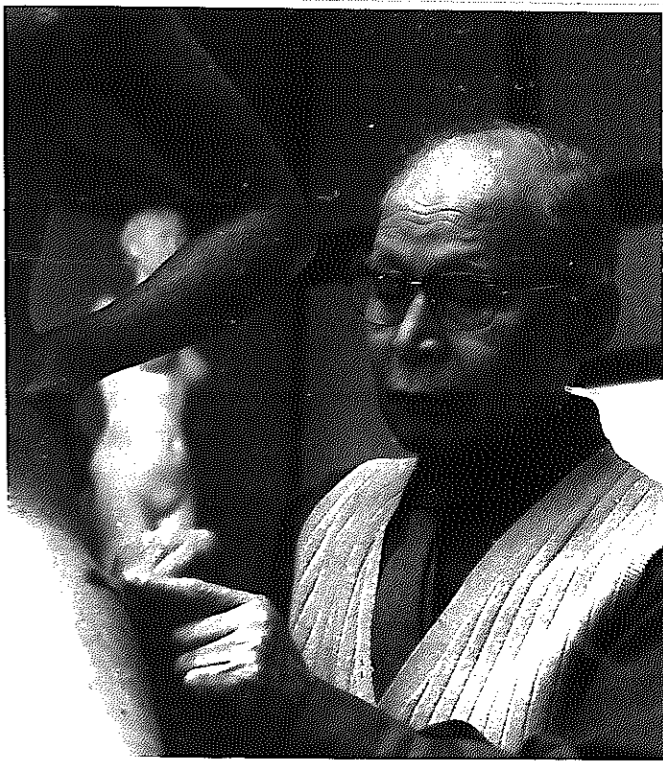
市が整備する公共下水道事業は、ポンプ場や汚水処理場の建設から幹線管渠や枝線管渠の敷設、公共汚水ますの設置までです。このため家庭内から公共汚水ますまでの下水工事は個人の負担となります(上図参照)。

この家庭内の下水道を「排水設備」と言います。家庭の台所・ふろ・水洗トイレなどからの汚水や工場・事業所から排出される汚水を公共下水道に流すために、各自の敷地内に埋設する排水管渠などの設備です。

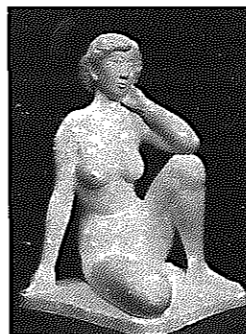
排水設備は公共下水道の整備が終わりました、各自に工事をしていただくことになり

二大作家、
ふるさとで初の二人展

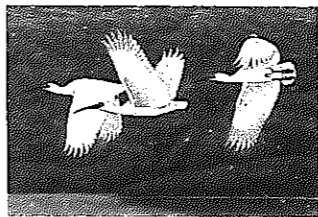
長井亮之・千野茂 ふるさと巨匠二人展



▲東京芸術大学名誉教授・彫刻家 千野茂さん



▲越の海(千野茂作)



▲飛翔(長井亮之画)

白根市出身の日本画家・長井亮之さんと彫刻家・千野茂さんの展覧会「ふるさと巨匠二人展」が十一月下旬にカルチャーセンターで開催されることになりました。

「それぞれの分野の第一線で活躍している偉大な作家の存在を市民の皆さんに知ってもらい、素晴らしい作品を鑑賞してもらおう」と市民の有志で組織する実行委員会が、現在準備を進めています。

長井さんは明治三十六年、四の町生まれ。日本美術院特待。平成五年に新潟日報文化賞を受賞するなど、これまで数多くの展覧会で賞を受け、日本画の巨匠として知られています。九十四歳になる今でも県内最長老の日本画家として活躍中。昨年一月にカルチャーセンターで開かれた展覧会は、好評を博しました。

一方の千野さんは、大正二年生まれの八十四歳。新飯田の出身です。昭和十七年に院展に初入選して以来、日本美術院大観賞・白寿賞など数多くの賞を受賞しています。また、昭和五十五年まで東京芸術大学教授を務め、現在は同大学名誉教授。

ふるさとを遠く離れ、訳あって最近まで故郷の地を踏むことなかった千野さんは「初めての展覧会は感無量です。昔からつきあいのある長井さんと、ふるさとで二人展をやるなんて考えてもいなかった。最初で最後の機会でしょうから、一生の記念になると考えてお引き受けしました」と展覧会の開催に感慨もひとしおの様子です。

「生々しい色気たっぷりの裸婦ではなく、奈良にある藤原時代の仏像のような作品を作りたいと思います」と千野さん。一時期、スランプに陥っていたころ、奈良の仏像を見てスランプから脱出。以来、仏像のようなおらかな裸婦を作りたいという思いで作品に向かっていると言います。「これからも、これが八十過ぎのじいさんが作ったのかと言われる若々しい豊かなものを作りたい」と製作にかける思いを語っていました。

展覧会発起人で、実行委員会副委員長の井部和夫さんは「お二人そろっての作品展は、長い間実現させたい願いでした。お二人の素晴らしい芸術に触れる機会はめったにないものです。何度足を運んでも感動してもらえような作品ばかり。ぜひ多くの方から見てください。ただきたい」と話しています。

展覧会では、日本画が百五十号の大作二点を含めて二十八点、彫刻がデッサンを含めて二十四点展示される予定。日本画は今年描いた新作もあり、昨年の展覧会で出品した作品はほとんど含まれていません。彫刻は等身大六点、ブロンズなど十八点のほか、スケッチ六点が展示されます。

ふるさと巨匠二人展

■と き 11月22日(土)～30日(日) 午前10時～午後6時(最終日は午後5時まで)

(特別講話) 11月23日(祝)・30日(日) 午後2時30分～3時 長井亮之さん・千野茂さん

(作品解説会) 11月23日(祝) 午前10時～正午 日本画 解説・外川利雄さん(県芸展審査員)

午後1時～4時 彫刻 解説・植村脩さん(県美術家連盟会員)

11月30日(日) 午前10時～正午 彫刻 解説・植村脩さん

午後1時～4時 日本画 解説・外川利雄さん

■と ころ カルチャーセンター特設会場 ※入場無料

■問い合わせ 実行委員会(中央公民館 ☎373・3174)



変わる社会教育施設、
複合型で市民ニーズに対応

生涯学習という意識が高まるにつれて、年齢、性別を問わずさまざまな趣味を持つ人が増えてきました。パソコンを楽しむ高齢者、ガーデニングと称し、庭造りを楽しむ若者、料理教室に通うお父さんたち、釣りに出掛ける若い女性。人目を気にせず、自分の好きな趣味に没頭できる時代になったといえます。生涯学習の普及は公民館事業や社会教育施設の在り方をも変えつつあります。

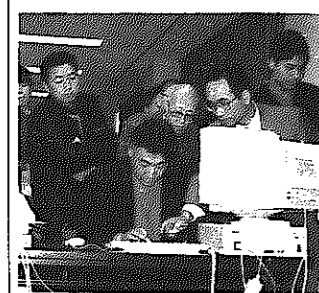
また「生涯学習センターができれば、レベルの高い事業を行える。講座一つをとっても、全市から本当に関心のある人が学習意欲を持って集まるわけですから、中身の濃い、突っ込んだ内容にしたい」と思い「市民ニーズ」といいます。

市民ニーズへ対応

市内の九つの公民館では毎晩さまざまな催しが行われています。インターネット講座、パソコン教室といったニューメディアに対応したものから、男の料理教室、ハイブ講座、空手教室など。公民館で働く職員は「さまざまな講座や教室、イベントなど、本当に事

生涯学習意識の高まりの中で、公共施設の機能も変わり、単に部屋を提供するだけでなく、住民が学習したり調べたり、活動成果を発表したりできることが求められるようになってきました。

これらにこたえるため、複合型学習施設を選択した市町村も多く、県内でも、公民館・文化ホール・福祉施設を融合した頸城村ユートピアくまびき希望館、理科センターを内包した新発田市生涯学習センターなど、さまざまな複合施設が登場。社会教育課では「市民ニーズの多様化・高度化に対応し、限られた予算の中で無駄のない施設提供が必要な時代になった」と分析します。



▲市民ニーズに対応して、さまざまな公民館事業が展開されるようになった。写真はインターネット講座